

令和3年度 自己点検・評価書

令和4年10月

佐賀大学

理工学部・理工学研究科・工学系研究科

目次

I 現況及び特徴.....	1
II 目的.....	2
III-I 教育に関する状況と自己評価（以下の「大学改革支援・学位授与機構」の大学機関別認証評価の基準に関する根拠資料等に基づき記述する。）.....	3
領域1 教育研究上の基本組織に関する基準.....	3
領域2 内部質保証に関する基準.....	5
領域3 財務運営、管理運営及び情報の公表に関する基準.....	16
領域4 施設及び設備並びに学生支援に関する基準.....	16
領域5 学生の受入に関する基準.....	20
領域6 教育課程と学習成果に関する基準.....	22
III-II 教育の水準の分析（教育活動及び教育成果の状況）.....	50
分析項目I 教育活動の状況.....	50
A. 教育の国際性.....	50
B. 地域連携による教育活動.....	53
C. 教育の質の保証・向上.....	54
D. 学際的教育の推進.....	56
E. リカレント教育の推進.....	57
分析項目II 教育成果の状況.....	57
A. 卒業（修了）時の学生からの意見聴取.....	57
B. 卒業（修了）生からの意見聴取.....	58
C. 就職先等からの意見聴取.....	58
IV-I 研究に関する状況と自己評価.....	60
A. 基本理念.....	60
B. 研究目的.....	60
C. 研究の特徴.....	61
D. 研究活動における関係者とその期待.....	61
IV-II 研究の水準の分析（研究活動及び研究成果の状況）.....	62
分析項目I 研究活動の状況.....	62
分析項目II 研究成果の状況.....	67
V-I 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価.....	74
VI-I 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価.....	79
VI-II 明らかになった課題等（本学職員以外の者による意見を含む）に対する改善の状況又は改善のため	

I 現況及び特徴

佐賀大学理工学部の母体である佐賀大学文理学部を1949年に設置した。1966年、文理学部を改組し理工学部5学科（数学科、物理学科、化学科、機械工学科、電気工学科）を設置した。1975年に佐賀大学工学研究科を設置、1983年に工学研究科修士課程を改組し、理工学研究科修士課程が設置され、理工融合の高度な教育研究を行う礎が築かれた。1991年、理工融合の研究及び教育理念に基づき、理工学研究科を改組し工学系研究科（博士前期課程・後期課程）を設置した。1997年理工学部を改組し、7学科（数理科学科、物理科学科、知能情報システム学科、機能物質化学科、機械システム工学科、電気電子工学科、都市工学科）を設置した。2010年4月に工学系研究科博士前期課程を8専攻（数理科学専攻、物理科学専攻、知能情報システム学専攻、循環物質化学専攻、機械システム工学専攻、電気電子工学専攻、都市工学専攻、先端融合工学専攻）に改組し、また、工学系研究科博士後期課程をシステム創成科学専攻に改組した。2019年4月に理工学部7学科を改組し、1学科（理工学科）を設置し、また、工学系研究科博士前期課程を改組し、理工学研究科理工学専攻の1専攻10コースとした。さらに、2021年4月に工学系研究科博士後期課程を改組し、理工学研究科博士後期課程を設置した。

理工学部では、学生に自律的に学ぶ姿勢、原理・原則を理解する力、アイデア創出能力、問題発見能力、課題設定能力、構想力、モデル化能力、課題解決・遂行能力を身に付けさせ、産業構造の変化に柔軟に適応できる幅広い教養と理工学基礎力を土台として、複眼的視点・俯瞰的視野から社会の広い分野で活躍できる科学・技術の専門的素養を持つ人材を養成するために、1学科12コースによる教育プログラムを提供している。

理工学研究科では専門分野ごとのコース制を採ることで、教育実施体制を柔軟に構築し、さらに、教育や研究指導において専門分野間の連携を容易に図ることができる環境を作り、コース内で専門分野についての高度な知識や技術を身に付けると同時に、専門分野の枠を越えた内容を自らのキャリアデザインに基づき自主的に学ぶことができる。さらに、理工学研究科、先進健康科学研究科と農学研究科が協力して教育を実施することで、異分野の知識や考え方を含んだ、分野の枠を越えた視点や実践力を身に付けることができる。

工学系研究科博士後期課程では、理工学部や各センター所属の教員に加えて、教育学部や経済学部などの文科系学部教員も参加して教育に当たっている。

理工学部・理工学研究科・工学系研究科の研究の特徴として、バックグラウンドの異なる教員による活発な交流が挙げられる。その結果、共同研究として新たな研究分野を立ち上げるなど、「理工融合」を活かした多くのプロジェクト研究が芽吹いている。このように、「理工融合」に基づく柔軟な研究組織を構成できるところに理工学部・理工学研究科・工学系研究科の優位性がある。この優位性は、基礎的分野から社会実装可能な応用分野にいたる幅広い研究を可能にさせている。さらに、常に社会情勢を鑑み、かつステークホルダーの要望と期待に沿う改革を進める努力を続けている。

Ⅱ 目的

理工学部は、佐賀大学理工学部規則第 1 条の 2 に定められており、理工学部理工学科の各コースの目的は、同第 1 条の 4 に定められている。その趣旨は、学校教育法第 83 条「大学は、學術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道德的および応用的能力を展開させることを目的とする。」ならびに同第 83 条の 2「大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」に合致している。

理工学研究科の目的は、佐賀大学大学院理工学研究科規則第 2 条に定められており、理工学研究科理工学専攻の各コースの目的は、同第 3 条の 2 に定められている。その趣旨は、学校教育法第 99 条「大学院は、學術の理論および応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識および卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。」に合致している。

工学系研究科の目的は、佐賀大学大学院工学系研究科規則第 1 条の 2 に定められており、工学系研究科博士後期課程専攻の目的は、同第 1 条の 4 に定められている。その趣旨は、学校教育法第 99 条「大学院は、學術の理論および応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識および卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。」に合致している。

- ・根拠資料 2-3-3-②事務連絡会議 会議資料（非公表）
- ・根拠資料 2-3-3-③令和 3 年度第 1 回経営協議会議事要旨
<http://www.saga-u.ac.jp/somu/somu-kei1.2021.pdf>

[2-3-4] 質保証を行うに相応しい第三者による検証、助言を受け、内部質保証に対する社会的信頼が一層向上している状況にあること

【分析にかかる状況、特色】

・質保証を行うに相応しい第三者である一般社団法人日本技術者教育認定機構(JABEE)による検証、助言を受け、理工学部旧 7 学科の内 4 学科において、技術者教育プログラムとして継続認定された。これら 4 学科のうち 3 学科では令和 2 年度末時点で認定継続中である。

【根拠資料】

- ・根拠資料 2-3-4-①JABEE 最終審査結果（知能情報）（非公表）
- ・根拠資料 2-3-4-②JABEE 最終審査結果（機能物質化学）（非公表）
- ・根拠資料 2-3-4-③JABEE 最終審査結果（機械システム工学）（非公表）
- ・根拠資料 2-3-4-④JABEE 最終審査結果（電気電子工学）（非公表）

○優れた点

ステークホルダーである卒業・修了予定者からのアンケート調査を毎年実施する体制があり、卒業予定者に対するアンケートによれば、「学部教育や研究室・ゼミでの教育に満足している」学生が 90% 以上であり、修士課程の修了予定者も含め、83%以上の学生が専門的な知識や技能等の修得を実感しており、2020 年度に比べて 10%向上している。また、外部評価として JABEE 審査を定期的受審する体制がなされており、機械工学部門の 2 コースの教育課程において JABEE 認証を維持している。これらは、内部質保証のための手順が明確に規定され、理工学部全教員による PDCA サイクルも含めて自律的な機能が発揮されている結果と考える。

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし。		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準 2-4 教育研究上の基本組織の新設や変更等重要な見直しを行うにあたり、大学としての適切性等に関する検証が行われる仕組みを有していること

[2-4-1] 学部又は研究科その他教育研究上の組織の新設・改廃等の重要な見直しを行うにあたり、機関別内部質保証体制で当該見直しに関する検証を行う仕組みを有していること
該当なし。

基準 2-5 組織的に、教員の質及び教育研究活動を支援又は補助する者の質を確保し、さらにその維持、向上を図っていること

[2-5-1] 教員の採用及び昇格等に当たって、教育上、研究上又は実務上の知識、能力及び実績に関する

・根拠資料 6-2-2-④（工学系研究科）学位授与の方針および教育課程編成・実施の方針(2021年度)

○優れた点

理工学部・理工学研究科・工学系研究科の教育課程編成・実施の方針は、学生や授業科目を担当する教員が分かりやすいように、方針を明確かつ具体的に明示している。

理工学部・理工学研究科・工学系研究科の教育課程編成はいずれも学位授与の方針と整合的である。

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし。		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準 6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること

[6-3-1] 教育課程の編成が、体系性を有していること

【分析にかかる状況、特色】

・理工学部では、2011年3月に「学位授与の方針」「教育課程の編成・実施の方針」を制定し、佐賀大学学士力と科目の対応表を教育課程編成・実施の方針と示すことで、教養教育と専門教育との関係や年次進行の教育課程の体系性をより明確になるようにしてきた。また、学年ごとの履修科目を示した「履修モデル」、各学科の開設科目を示した「開講科目一覧」を理工学部学生向けの履修の手引きである「理工学部で何を学ぶか」に掲載してきた。2018年度からは、「学位授与の方針」と科目の対応を示した「カリキュラムマップ」も「理工学部で何を学ぶか」に掲載することで、教育課程の体系性の理解に役立つようにしてきた。2019年度の理工学部改組により全面的に改訂したものを「理工学部で何を学ぶか」に掲載している。

・授業科目の体系性と水準を示すコースナンバーを各科目に付して、オンラインシラバスにて示している。

・理工学研究科では、設置された2019年4月に制定した「学位授与の方針」「教育課程の編成・実施の方針」に基づき、「履修モデル」を兼ねた「カリキュラムマップ」を作成することで体系性を明確に示し、大学院履修案内に掲載している。また、全ての科目にコースナンバーを付与し、カリキュラムの体系性を明確化している。

・工学系研究科では、2011年3月に制定した「学位授与の方針」「教育課程の編成・実施の方針」に基づき、博士後期課程では体系性を示す「履修モデル」を作成し、大学院履修案内に掲載している。また、全ての科目にコースナンバーを付与し、カリキュラムの体系性を明確化している。

【根拠資料】

- ①体系性が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等）：
- ・根拠資料 6-3-1-①-1（理工学部）2021年度履修モデル
 - ・根拠資料 6-3-1-①-2（理工学部）2021年度カリキュラムマップ
 - ・根拠資料 6-3-1-①-3（理工学部）2021年度学部カリキュラム対応コースナンバリング表

による学位の授与に関する取扱要項_第7条_8条

- ・根拠資料 6-3-4-②-3 (理工学研究科) 研究指導実施報告書履修案内抜粋
 - ・根拠資料 6-3-4-②-4 (理工学研究科) 研究指導実施報告書入力状況_2021. 9. 14_第5回大学運営連絡会
 - ・根拠資料 6-3-4-②-5 (理工学研究科) 研究指導実施報告書(博士前期20入学生)
 - ・根拠資料 6-3-4-②-6 (理工学研究科) 研究実施報告書の例1
 - ・根拠資料 6-3-4-②-7 (工学系研究科) 佐賀大学大学院工学系研究科(博士前期課程)における学位の授与に関する取扱要項_第4条_5条
 - ・根拠資料 6-3-4-②-8 (工学系研究科) 研究実施報告書の例1
- ③国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況を確認できる資料：
- ・根拠資料 6-3-4-③-1 (理工学研究科) 理工学研究科履修案内2021_抜粋
 - ・根拠資料 6-3-4-③-2 (理工学研究科) 学会での研究発表の状況_2021年度_教員活動データベースから抽出
 - ・根拠資料 6-3-4-③-3 (工学系研究科) 工学系研究科教育課程編成・実施の方針
 - ・根拠資料 6-3-4-③-4 (工学系研究科) 工学系研究科履修案内2020_抜粋
 - ・根拠資料 6-3-4-③-5 (工学系研究科) 学会での研究発表の状況_2021年度_教員活動データベースから抽出
- ④他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況を確認できる資料：
- ・根拠資料 6-3-4-④-1 (理工学研究科) 令和3年度産総研教員による機能材料技術特論シラバス
 - ・根拠資料 6-3-4-④-2 (理工学研究科) 産業技術総合研究所技術研修申請書
- ⑤研究倫理に関する指導が確認できる資料：
- ・根拠資料 6-3-4-⑤-1 (理工学研究科) 国立大学法人佐賀大学における公正な研究活動の推進に関する規程_第3条3項
 - ・根拠資料 6-3-4-⑤-2 (理工学研究科) 令和3年度研究倫理教育の実施について_依頼メール
 - ・根拠資料 6-3-4-⑤-3 (理工学研究科) 大学院教養教育プログラム科目「研究・職業倫理特論」シラバス
 - ・根拠資料 6-3-4-⑤-4 (工学系研究科) 国立大学法人佐賀大学における公正な研究活動の推進に関する規程_第3条3項
 - ・根拠資料 6-3-4-⑤-5 (工学系研究科) 令和3年度研究倫理教育の実施について_依頼メール
 - ・根拠資料 6-3-4-⑤-6 (工学系研究科) 大学院教養教育プログラム科目「研究・職業倫理特論」シラバス
- ⑥TA・RAとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、TA・RAの採用、活用状況を確認できる資料：
- ・根拠資料 6-3-4-⑥-1 (工学系研究科・理工学研究科) 2021年度TA実績報告書
 - ・根拠資料 6-3-4-⑥-2 (工学系研究科) 2021年度RA実績報告書

【6-3-5】 専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、教育課程連携協議会を運用していること

○優れた点

したか」の設問に対して、それぞれ、92%以上、90%が満足していると回答している。本学部が掲げる幅広い教養と科学・技術の専門的な素養を持ち、社会の広い分野で活躍できる人材を育成するという目標の達成を支持している。

理工学研究科修士課程において、2021年度に実施された修了予定者に対する全学的な共通アンケート等において、学習成果に関連した設問項目に対して肯定的な回答が多い。例えば、大学院修了生を対象とする共通アンケートにおいて、専門的な知識や技能（90%）、分析し批判する能力（84%）、プレゼンテーション技術（83%）、資料や報告書を作成する能力（92%）、研究能力（84%）、課題を探究する能力（85%）、問題を解決する能力（95%）等については、83%以上の学生が修得を実感している。2020年度に比べて10%向上している。

- ・根拠資料Ⅲ-Ⅱ-Ⅱ-A-①2021年度理工学部授業アンケート集計結果
- ・根拠資料Ⅲ-Ⅱ-Ⅱ-A-②2021年度理工学研究科授業アンケート集計結果
- ・根拠資料Ⅲ-Ⅱ-Ⅱ-A-③2021年度工学系研究科博士後期課程授業アンケート集計結果
- ・根拠資料Ⅲ-Ⅱ-Ⅱ-A-④2021年度理工学部卒業予定者アンケート集計結果
- ・根拠資料Ⅲ-Ⅱ-Ⅱ-A-⑤2021年度理工学研究科修了予定者アンケート集計結果

B. 卒業（修了）生からの意見聴取

理工学部・理工学研究科・工学系研究科において、数年に一度を目安に実施している卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取結果においては、専門的な知識や技術と共に、それらを実践に活かす能力等の設問項目に対して満足度が高くなっており、本学部が掲げる幅広い教養と科学・技術の専門的な素養を持ち、社会の広い分野で活躍できる人材を育成するという目標の達成を支持している。

機械工学部門では、教育の改善に反映させるため、毎年度、卒業生・修了生の計2名に学科の技術者教育プログラムについて外部評価を依頼している。

- ・根拠資料Ⅲ-Ⅱ-Ⅱ-B-①機械工学部門卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取結果
- ・根拠資料Ⅲ-Ⅱ-Ⅱ-B-②佐賀大学における就職支援の質保証に関する方針
- ・根拠資料Ⅲ-Ⅱ-Ⅱ-B-③佐賀大学の卒業生又は修了生を対象としたアンケート実施要領
- ・根拠資料Ⅲ-Ⅱ-Ⅱ-B-④卒業（修了）生アンケート調査票
- ・根拠資料Ⅲ-Ⅱ-Ⅱ-B-⑤2020年度卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からのアンケート結果

C. 就職先等からの意見聴取

理工学部・理工学研究科・工学系研究科において、数年に一度を目安に実施している企業アンケートの結果では、卒業生あるいは修了生が学習の成果として身につけた能力のうち、専門的な知識や技術と共に、それらを実践に活かす能力等の設問項目に対して満足度が高くなっており、本学部が掲げる幅広い教養と科学・技術の専門的な素養を持ち、社会の広い分野で活躍できる人材を育成するという目標の達成を支持している。

化学部門では、2016年度に化学分野を卒業した学生の就職について調査を実施しており、機械工学部門では、教育の改善に反映させるため、2018年度に修了生が勤務している企業にアンケートを実施した。これらの企業アンケートの結果では、卒業生あるいは修了生が学習の成果として身につけた能力

に対して、肯定的な回答が大半を占めている。

キャリアセンター主導で就職先に対するアンケート様式と実施体制が整備されている。尚、2021年度は実施されていない。

- ・根拠資料Ⅲ-Ⅱ-Ⅱ-C-① 機械工学部門企業アンケート集計結果
- ・根拠資料Ⅲ-Ⅱ-Ⅱ-C-② 佐賀大学における就職支援の質保証に関する方針
- ・根拠資料Ⅲ-Ⅱ-Ⅱ-C-③ 佐賀大学の卒業生又は修了生が就職した企業等を対象とするアンケート実施要領
- ・根拠資料Ⅲ-Ⅱ-Ⅱ-C-④ 企業アンケート調査票

- ・株式会社 ダイコクシステムサービス RFID を活用した物流システムが病院の効率化に与える影響に関する研究
- ・株式会社翔エンジニアリング レクテナアレイアンテナ捕集効率改善に関する共同研究
- ・株式会社協和製作所 無動力・無人操作方式自動ゲート設備の遠隔監視システムの研究
- ・日立化成株式会社→昭和電工マテリアルズ 圧粉磁心を用いた電気機器の磁界解析法の検証と最適設計
- ・パナソニックデバイス佐賀株式会社 高性能 POSCAP 開発の基礎研究
- ・アダマンド並木精密宝石(株) 大口径ダイヤモンド基板上へのトランジスタ形成
- ・株式会社前川製作所 スクリュー圧縮機用かみあい試験機の製作及び特性評価
- ・田中貴金属工業株式会社 Pt または Rh の選択的抽出に関する共同研究
- ・日本光電工業株式会社 神経救急脳波の総合判定
- ・株式会社ノベルクリスタルテクノロジー 4 インチ β -Ga₂O₃ エピウエハの結晶欠陥の評価とキラークラスタ密度の低減
- ・ENEOS株式会社 製油所における高度設備管理技術に関する研究
- ・ダイキン工業株式会社 広域分散システムを基盤とした暗号およびセキュリティ技術の調査研究
- ・三菱電機株式会社 歪み解析技術に関する研究
- ・三菱電機株式会社 GaN パワーデバイスのノーマリーオフゲート設計技術開発
- ・株式会社富士通ゼネラル 地中熱ハイブリッド冷暖房機に関する研究
- ・株式会社テノックス九州 佐賀低平地の粘性土における効果的な地盤改良仕様の策定と実装に関する研究
- ・マツダ株式会社 水素脆化のモデル化と予測技術に関する研究
- ・株式会社神戸製鋼所 計算科学を活用した鉄と水素および添加元素の相互作用に関する共同研究
- ・聖徳ゼロテック株式会社 AE センサーを用いた金型トラブル予見システムの開発
- ・佐嘉吉野ヶ里ソーラー合同会社 代表社員
- 株式会社 NTT ファシリティーズ 吉野ヶ里メガソーラーの発電特性に関する研究
- ・西松建設株式会社 水路トンネル調査ロボットの開発
- ・三菱電機株式会社 非共沸混合冷媒の伝熱特性に関する研究
- ・ソフトバンク株式会社 次世代移動通信用広帯域プリントアンテナに関する共同研究
- ・志村製材有限会社、他 4 者 ムーブブルアーキテクチャー研究
- ・佐賀県畜産試験場 家畜排せつ物処理における微生物燃料電池の利用可能性の検討
- ・アダマンド並木精密宝石株式会社、国立大学法人東北大学 ヘテロエピタキシャルダイヤモンドを用いた検出器の研究
- ・コラジェン・ファーマ株式会社 中空コラーゲンゲルの再生医療への応用に関する共同研究
- ・木村情報技術株式会社 人工知能を用いた医療現場の安全向上と効率化に資するシステム開発に関する研究
- ・株式会社森川鑿泉工業所三井化学産資株式会社、株式会社ワイビーエム 地中熱交換器 Geo-Mex の熱伝導性能評価
- ・国立大学法人九州大学、ダイキン工業株式会社、学校法人中村産業学園九州産業大学、国立大学法人長崎大学 新世代冷媒の熱力学性質の高精度測定
- ・岩尾磁器工業株式会社 セラミック多孔質基材の製造技術の開発

- ・国立研究開発法人産業技術総合研究所 近赤外応力発光微粒子による生体内力学情報のセンシングに関する研究
- ・株式会社Keigan 走行ロボットの自動制御に関する研究
- ・合同会社ロケモAI オーダーメイド観光ツアー提案アルゴリズム：AI ツアーの研究開発
- ・国立研究開発法人日本原子力研究開発 有用金属回収用抽出剤を用いる共同研究
- ・佐賀県農業試験研究センター IoTによる農作物生育管理に関する研究
- ・熊本高等専門学校生体情報のデータマイニングとロボット制御に関する研究
- ・株式会社 中山鉄工所 ロボット関連技術等の人材育成に関する共同研究
- ・株式会社 匠 IH（誘導加熱）に対応する有田焼の病院・介護施設給食用食器及び調理器具の開発
- ・国立研究開発法人 産業技術総合研究所 非水溶媒系における CO₂ 吸収反応機構の解明
- ・株式会社アトラックラボ カメラ映像を用いた移動ロボット車の自律走行制御に関する研究
- ・(国研) 日本原子力研究開発機構、(株) シンターランド 放電プラズマ焼結による原子炉燃料製造プロセスシミュレーションの研究
- ・大栄工業株式会社 エッジコンピューティングに基づくプラスチック成形部品の AI 画像検査システムの開発
- ・Citynow Asia 株式会社 顔認証 AI エンジンを用いた記憶支援システムの研究開発
- ・Citynow Asia 株式会社 ベトナムの医療 ICT の現状と需要の調査
- ・株式会社富士建 色素染色による廃棄物建材等の石綿迅速可視化・リモート検査法の開発
- ・佐賀県工業技術センター 大気圧プラズマ成膜法による DLC の高質化に関する研究
- ・国立研究開発法人産業技術総合研究所 機能性物質を利用した新規デバイス・技術の開発
- ・国立研究開発法人情報通信研究機構 医療現場における無線環境の可視化および安定運用手法の研究
- ・神崎市 神崎市における防災縦断道路の整備効果に関する研究

○ 県内企業等との共同研究は H28 から R03 年度で、14 件、18 件、24 件、22 件、 22 件、22 件であり、目標値の 14 件を達成していた。

<選択記載項目 C 教育の国際性>

○ 海外版ホームカミングデーの実施について

- ・本学と海外協定校との連携強化及び帰国留学生等の本学関係者のネットワーク構築を目的し、海外で（オンライン）開催予定である。
- ・12 月 18 日に佐賀大学とバングラデシュ人留学生同窓会発足式（ホームカミングデー）をオンライン形式で実施した。
- ・佐賀大学の国際課の主催で行う、本プログラムには学長、副学長及び教職員（部局を含む）の参加があった。
- ・本プログラムにより協定校との連携を強化及び帰国留学生と本学関係者のネットワークの構築を達成した。

○ 新たな短期留学プログラム（大学院）SPACE-SE の実施について

- ・新たに立ち上げた協定校の交換留学生（大学院生）受け入れプログラム（SPACE-SE）を実施し、令和 3 年 10 月入学で 3 人を受け入れた。コロナ禍において 3 人ともオンライン形式で授業及び研究指導を受け、そのうち 2 人は半年後に終了ができ、1 人は 1 年後に終了することの計画もした。全ての参加

	R2	・さらなる科研費の採択率の向上を目指し、引き続き学内査読 制度の整備、科研費申請書作成のためのファカルティデベロップメントへの参加を促す、複数教員による共同研究を起点に学 際分野への応募などを目指す必要がある。	<p>【令和 3 年 12 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内査読について、結果を待つほかないが、前年度評価が高いにも関わらず採択されなかった申請書に対して学内査読を促すなどの支援を検討する。理工学部と農学部、医学部とのプロジェクトなどに対して、学際分野への応募を促す。 <p>【令和 4 年 10 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> さらなる採択件数増加に向け、FD 講演会とアンケートを実施して教員の採択意識向上を図り、科研費申請書の学部内査読体制を強化した。特に長年採択されていない教員に対して、申請書作りの支援として学内査読を受けるよう促した。また理工学部と農学部、医学部とのプロジェクトなどに対して、学際分野への応募を促す。
	R2	・民間企業や国の研究機関との共同研究数の増加、国からの補助金のさらなる獲得に向けて、研究成果の情報発信などを理工学部 Web サイト、大学広報室の SNS、URA とも協働して積極的に発信など改善すべきである。	<p>【令和 3 年 12 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部 Web サイト、大学広報室の SNS、URA を絡めた積極的な 広報活動の結果、業界団体から講演依頼を受けた事例もあり、研究成果の情報発信が功を奏した。今後も積極的な情報発信を行う。 <p>【令和 4 年 10 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部 Web サイト、大学広報室の SNS、URA を絡めた積極的な 広報活動の結果、地方自治体との連携数、企業との共同研究の増加、業界団体から講演依頼を受けた事例もあり、研究成果の情報発信が功を奏した。今後も積極的な情報発信を行う。
	R3	・研究費の配分時期が遅く、年度初めに研究計画が立てにくい。おおよその配分額がわかれば、研究計画の立案と遂行がしやすくなるので、改善が必要である。	<p>【令和 4 年 10 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度初めの早期執行に配慮した 0 配分を行うなど部分的対応は実施済み。そのほか、必要な研究費執行については予算委員会等を通じて、検討を行う。
	R3	・さまざまな学内用務に忙殺され、研究時間が確保できていない問題がある。また十分に外部資金が獲得できておらず研究が停滞している恐れがある。	<p>【令和 4 年 10 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内委員会の編成の見直しを通じて学内用務の軽減を図る。長年科研費が獲得できていない教員に申請書の学内査読を受けるよう提案し、受け入れてもらうように進言する。
国際交流・社会貢献	R2	・AI、データサイエンス、IoT 等の先端技術を担う人材の育成、また国際的視野を持った人材の育成に力を入れる。	<p>【令和 3 年 12 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> AI やデータサイエンス及び IoT 等による技術革新で世界を牽引し、日本やアジア諸国の国際競争力を高めることができるグローバルマインドを有する高度人材育成に必要な対応を行う。 <p>【令和 4 年 10 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> AI・データサイエンス分野を中心した国費・私費外国人留学生の優先配置を行う新たな特別プログラム (EPAD) を立ち上げ、協定校の優秀な研究学生を受け入れる準備ができた。
	R2	・コロナ禍での国際交流に関する活動を模索し、改善に向けた取り組みを行う必要がある。	<p>【令和 3 年 12 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットを活用したオンライン会議等を活用することで、コロナ禍での国際交流の継続に対応する。 <p>【令和 4 年 10 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> EPGA 国費 (令和 3 年 10 月入学)、私費留学生及び交換留学生 (SPACE-SE, SPACE-E 及び SPACE 一般) 向けの講義や研究活動は、コロナ禍において入国できないままであったため、オンライン形式で実施した。

組織 運営	R2		
施設	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院棟に設置してあるプロジェクターの一部が劣化し、映写時の鮮明さが不足して見づらいことに気がついたので、一度 大学院棟全ての講義室のプロジェクターをチェックし、可能であれば劣化が見られるプロジェクターに関しては早期に交換した方がよい。(基準 4-1) 	<p>【令和 2 年 12 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 2 年度は、コロナ禍により遠隔授業が基本となったため、プロジェクターの対応は行っていない。 ・毎年教務委員会で取り纏めている「アクティブ・ラーニング用教室の整備計画」に基づき、施設マネジメント委員会と連携の上、学部予算で整備できる少額機器等については整備を進める方向で検討が進んでいる。 ・新生のコース配属はコロナによるオンライン講義のため今年度は学生の希望通りに行うこととなった。来年度（令和 3 年度）にアクティブ・ラーニング教室の整備・活用状況の調査作業を実施し、その結果を踏まえて設備マスタープランなどに盛り込むなどして整備を進めていくことになる。 <p>【令和 3 年 3 月末】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AL 整備に関しては 2 号館の教室（209, 309）に AL 用の机を導入するなど進めている。 ・街灯支柱の腐食など安全に関わる補修に関しては緊急に対応した。 <p>【令和 4 年 10 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院棟の各教室のプロジェクターについて状態確認を行った。 ・ケーブル破損があった 1 台を修理し、他は交換が必要な状態には至っていないことを確認した。
	R2	<p>【令和 2 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で窓や扉の開閉による換気ができない講義室に関しては、改修補修が早急に必要と思われる。 ・コロナ禍により先送りされた大学院棟講義室のプロジェクター更新に関しては、対面授業への回帰に備え対応を考えるべき。(基準 4-1) 	<p>【令和 3 年 12 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓の補修や換気扇の追加などの最低限の改修は緊急に進めている。建物入口ではアルコール消毒に加え検温システムを導入されコロナ禍の安全対応に努めている。 ・プロジェクター更新を含め、更なる対応についてはコロナの推移を見ながら中期計画との整合性を取りながら進めることになる。 <p>【令和 4 年 10 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓の補修や換気扇の追加などの最低限の改修は継続的に進めている。更なる対応については新型コロナのまん延状況の推移を見ながら中期計画との整合性を取りつつ進める。 ・大学院棟の各教室のプロジェクターについて状態確認を行い、ケーブル破損があった 1 台を修理し、他は交換が必要な状態には至っていないことを確認した。